

違法連チャン機の常態化に警察激怒の重大事件が発生!

実録!! 大崎一万発の波乱万丈銀玉人生

あの日あの時あの一巻

パチンコ必勝ガイド編集部編



1993年5月1日号

第9話 ダービー物語 [平和]

表紙に躍る9機種名のうち、アヤしい仕組みを採用していない機種は京楽「宝島」一機種のみ。連チャン機ブームの中、京楽だけは節度を守る真面目メーカーだった(ゆえに苦戦していたのだが)。

今や「物語」と言えば三洋の海ですが、メイクされたのにダービー物語がなら

機種名に採用したのは平和が元祖でした。で、麻雀物語はりない理由って、(たぶん)こういうことなんだと。

符が打たれる。業界を激震させる大事件が発生したのだ。きつかけとなつたのは平和の人気連チャンマシン「ダービー物語」である。

90〜93年当時のパチンコ業界は、いわゆる「爆裂機」の人氣がピークを迎えた狂乱無法の時代であった。デジパチはもとより、権利モノ、電役機、アレパチ、(一部の)羽根モノ……登場するほぼすべての機種に「公式には謳われない連チャン性」が標準装備されており、その仕組みと攻略法を解明することがパチンコ攻略誌の使命すなわち僕らのメシの種であった。

しかしその連チャン性は全機種において「違法」に仕込まれたもので、建前上はすべてがノーマル機だった驚きの事実がある。実際のギャブル性はと言えば、多くが現行甘デジレベルのおとなしいものだったが、程度が問題なのではなく、「してはいけない」あつてはならない「連チャン」が、一大ブームとしてパチンコ人氣を盛り上げていた。摩訶不思議な現象をして、狂乱の爆裂機時代と記憶されているのである。

いわば全メーカーがオフショールの裏モノを作っていたようなもので、業界ぐるみの堂々すぎる無法がまかり通っていたわけだが、しかし当時は、それが許されるのがパチンコ業界だと、メーカーもホルモルもして打ち手も当然のように思い込んでおり、ある種の共犯関係の下打ち手も含んだすべての関係者がその恩恵にあずかっていた。もちろん、連チャンブームに乗って飛躍的に部数を伸ばした攻略誌も、甘い汁をたっぷり吸わせてもらった一人であることは言うまでもない。

90〜93年当時のパチンコ業界は、いわゆる「爆裂機」の人氣がピークを迎えた狂乱無法の時代であった。デジパチはもとより、権利モノ、電役機、アレパチ、(一部の)羽根モノ……登場するほぼすべての機種に「公式には謳われない連チャン性」が標準装備されており、その仕組みと攻略法を解明することがパチンコ攻略誌の使命すなわち僕らのメシの種であった。

しかしその連チャン性は全機種において「違法」に仕込まれたもので、建前上はすべてがノーマル機だった驚きの事実がある。実際のギャブル性はと言えば、多くが現行甘

連チャンしてはいけない? いやいや、元談でしよ先輩

しかし93年、この異常事態に終止符が打たれる。業界を激震させる大事件が発生したのだ。きつかけとなつたのは平和の人気連チャンマシン「ダービー物語」である。

一度タブればほとんどトリップる機種として大人氣を博したわけだが、2連→3連以上の発展率は約59%、本機独自の「Vゾーン」への連続入賞をトリガーに使ったシステムに行政がブチキレた。Vへの誘導釘を大きくアケることで連チャンを誘発する(もちろん設置前にホールには伝えられている……これが釘曲げ=無承認変更にあたるとして、

ダービー物語 [平和/1993年]
名古屋や上野、桐生といった「パチンコのメッカ」ではなく、全国初設置はなぜか静岡県。釘調整の絡む連チャンシステムと何か関係があったのか……?



基本データ	
当たり確率	235分の1
賞球	7&15
当たり出玉	約2,300個
備考	単発打ちをすると、カップ図柄のリーチがやたらかかる。連チャンとは無関係。

ついに連チャン機で逮捕者 業界激震ダービー物語事件

本機には、アタッカーVゾーンへの連続入賞によって連チャンプログラムが発動するいくつか変わったシステムが仕込まれていた。大当たり中、所定時間内に5個の玉が連続入賞することで、保留玉3、4個目の乱数値がまとめて書き換えられる。16パターンある書き換え数値のうち大当たりが含まれるセッとは3つ、すなわち16分の3で保留玉連チャンが発生する。しかもそのうちひとつは2個ともが大当たりという、保留トリプルが確定するうれしいパターンも存在した。

一度タブればほとんどトリップる機種として大人氣を博したわけだが、2連→3連以上の発展率は約59%、本機独自の「Vゾーン」への連続入賞をトリガーに使ったシステムに行政がブチキレた。Vへの誘導釘を大きくアケることで連チャンを誘発する(もちろん設置前にホールには伝えられている……これが釘曲げ=無承認変更にあたるとして、

個人的には、どちらにも「本当ではないかと睨んでいるのだが、もはや確認を取る術はなし。なお本事件は、逮捕者全員が不起訴処分となるスッキリしない決着を見ている。

真相はともかく、行政側の本気度を如実に示す事件のインパクトは絶大だった。摘発のあった93年秋以降、違法連チャン機のリリースは突如ペースダウンし、行政側の思惑通りにCR機の導入が急拡大していく。ダービー物語は、図らずもパチンコの歴史を転換させてしまった「悲運のマシン」として、僕の記憶に深く刻まれている。

OSAKI ICHIMANPATSU

大崎一万発 / おおきき いちまんぱつ
パチンコ情報誌『パチンコ必勝ガイド』(白夜書房)元編集長。現在はフリーランスとして多数のファン雑誌・情報誌に連載を持つ傍ら、テレビ・ラジオの専門チャンネルやホールイベントでも幅広く活躍中。その実績はただのパチンコ中書とか、『パチスタ★TV レバーオン』にもゲストで出演中!
Blog <http://love-pachi.com/>
Twitter [@manpatsu](https://twitter.com/manpatsu)

こぼれネタ

連チャン爛熟期だけあって、かなり特殊なゲーム性の機種も登場している。西陣『ライトアップ』は、大当たりすれば延々出続ける、まさかの無限連チャン電役(ただし、連チャン中にデジタルが回ると即バンク!)。正式発表機種ではなく、ひっそり一部ホールにのみ設置された。マルホン『ワールドカップ』は、大当たり後2分間のみ連チャンするという、「本当のチャンスタイム」搭載機。機種名も、今ならFIFAが飛んでくる(笑)。